

「最先端の放射線治療」

放射線科 白井 克幸

平成 29 年 11 月 1 日 総合医学第 1 講座 (放射線科) 教授として就任した白井と申します。私の専門は放射線腫瘍学となりますので、この度は「最先端の放射線治療」と題して、お話しさせていただきます。悪性新生物 (がん) は、1981 年以降日本人の死亡原因の第一位となっており、日本人の二人に一人はがんに罹患し、三人に一人はお亡くなりになると言われています。放射線治療は手術・化学療法と続いて、がん治療の「三大柱の一つ」です。放射線治療の最近の話題を通して、がん治療への理解を深めていただければ幸いです。

がん治療において、手術療法は根治治療として第一に検討されますが、急速な人口の高齢化に伴い合併症などで手術ができない患者さんも増えており、非切除療法としての放射線治療の役割は大きくなっております。近年の放射線治療技術の発展は目覚ましく、特にこの 10 年での放射線治療機器や計画装置の精度は高くなり、治療成績は改善してきております。より病変部のみに正確に照射をできる技術が確立し、X 線治療であれば IMRT (強度変調放射線治療) や定位放射線治療、粒子線治療であれば重粒子線治療や陽子線治療が、普及してきております。放射線腫瘍学は、放射線治療機器の進歩と共に発展しておりますので、これらの最新の治療技術を有効に活用する必要があります。

当センターでは Elekta 社の最新鋭のライナック機 Versa HD™ が平成 29 年 5 月より導入されており、高精度の放射線治療が患者さんに提供できるよう、スタッフ一同努力しております。平成 30 年 5 月からは最先端の照射法である VMAT (回転型の IMRT 照射法) を開始し、前立腺癌の患者さんの治療を開始いたしました。前立腺癌に対して IMRT は、これまでの照射法に比べピンポイントに治療が可能であり、より副作用が少なく、再発率を低下することができます。今後は頭頸部腫瘍、脳腫瘍、直腸癌の術前治療など IMRT の適応疾患を広げていきたいと思っております。また、I 期肺癌や単発の転移性肺腫瘍に対する定位放射線治療の受け入れも開始しております。

自治医大さいたま医療センター放射線科としましては安全を第一としながらも、高精度な放射線治療を患者さんに提供できるよう、日々努力しております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。